

歴民だより

第25号 (平成31年1月)

発行
新座市立歴史民俗資料館
片山一丁目21番25号

電話
048-481-0177
FAX
048-481-0149

rekimin@city.niiza.lg.jp



日本のお正月 凧展

1月30日(水)まで
好評につき平成31年**2月8日(金)**まで開催

絵本作家であり、凧に関する著書を多く手がけられた新坂和男氏が収集・創作した日本各地の凧を展示しています。

新坂氏は、凧は空に揚げるための科学的機能を必要とするため、欧米の外国凧は、その機能性と合理性によって発展の歴史をもっているが、日本の凧は主題を機能より”美”に置いている。そのため、反機能と非合理の平面凧が多く、「平面凧は、四角や円などの抽象形、昆虫などをとらえた象徴形、唐人、ばらもんなどを主題にしたシャーマニズム形に分かれるが、いずれも機能優先ではないから、空に揚げたとたん、こわれてしまうかも知れない危うさをもっている。だから日本の凧は矛盾の中で”美”に傾倒したと言えよう」と述べています。

(新坂和男『絵凧の技法』美術出版社、1987年、40ページ)

季節の展示～お正月飾り～

子どもが生まれると、親元や仲人、親戚などから男の子には破魔弓、破魔矢、女の子には押し絵の羽子板が贈られました。お正月には、多い家では10ケース以上の破魔弓や羽子板が部屋に並んだようです。

(『新座市史 民俗編』331 ページ)



季節の展示～繭玉飾り～

旧正月14日の行事で、米の粉で繭や里芋、にんじんなどの農作物の形の団子を作り、ナラやカシの木などの枝に飾ります。「お金がいっぱいたまるように」とか、「蚕がたくさん取れますように」、「野菜が豊作であるように」

などの祈りを込めていました。その木を臼の中心の穴に刺して座敷に飾り、箕の上に灯明やお神酒を供えて豊作祈願をしました。

(『新座市史 民俗編』213、288 ページ)



「新座市役所」 旧本庁舎の庁標を展示

新座市役所の新庁舎が昨年1月に開庁して1年が経ちました。現在、旧本庁舎解体及び外構工事が進められていますが、このほど旧本庁舎の庁標がその役目を終え、歴史民俗資料館に移されました。

旧本庁舎が使用開始されたのは、昭和49(1974)年7月ですから、約44年間、旧本庁舎とともに新座の発展を見守ってきました。

旧本庁舎正面、道路脇のコンクリート塀に御影石を埋め込み、横書きで「新座市役所」と力強く庁名が刻されていました。また、新座の「座」の字は、異体字が使われています。



講座のお知らせ

桃の節句と雛人形

日時：平成31年2月24日(日)

午前10時～11時30分

場所：歴史民俗資料館

定員：50名(申込順)

講師：東玉・人形

の博物館

大島一敏氏

申込は2月1日(金)から



親子でミニチュア土偶を作ろう！を開催しました(12月2日)

親子それぞれで2019年の干支「亥」の土鈴を作りました。亥を作るのは意外と難しく、牛や豚のようになってしまうことも…。「あれ？豚と亥って、どう違うんだっけ？」という声や、「うり坊って牙があったかな？」といった呟きがちらほら。親子で試行錯誤しながら、お気に入りの作品を仕上げていました。

焼き上がった土鈴からは、良い音色が鳴り響きました。2019年、平和で良い年になりますように。

